

第二回留学報告書

Funai Overseas Scholarship 2020 年度奨学生
古賀樹

2020 年 12 月

2020 年度から University of California San Diego の Computer Science 専攻 Ph.D. 課程に在籍している古賀樹と申します。コロナの影響でイレギュラーなことがたくさん起きましたが、無事渡米し、秋学期も残すところは期末試験のみという状況です。この報告書では、(1) 渡米に至るまでと生活のセットアップ、(2) 秋学期、(3) 今後に向けて、についてご報告させていただきます。

1 渡米に至るまでと生活のセットアップ

1.1 渡米に至るまで

コロナの影響で渡米以前にそもそも秋学期から入学するかどうか直前まで迷っていましたが、早く新たな場所で研究を始めたいという思いや時差、交友関係の構築などを考慮して、渡米を決意しました。

しかしながら F1 ビザの面接予約がプログラム開始直前まで取れなかったため、実際に渡米が決定したのは 8 月の終わりでした。ビザが承認されてすぐに 9 月 1 日発の飛行機を予約し、1 週間で急いで引越しの準備を行いました。日本にいる友達と渡米前に直接会って別れを惜しむ、というようなイベントが開催できなかったのは少し心残りです。

1.2 生活のセットアップ

渡米直後の 2 週間は大学のアパートメントの空き部屋に隔離されていました。この期間は本当に監獄にいるような気分でした。というのも、部屋の鍵は一度使うと失効するので部屋の外に全く出られない、日光があまり入らないので時差ボケが取れない、家具がベッドと机と椅子しかないので休憩しようと思

うと気付いたら寝てしまう、1 日 3 度運ばれてくるご飯が冷めていてかつ美味しくない、というように挙げ始めるとキリがないほど不満に溢れた環境でした。主に日本の友達と Zoom で話したりすることでなんとか気を紛らわせ、この期間を乗り越えました。唯一良かったことは食事のスタンダートを大きく下げることに成功したことです。出所後は何を食べても美味しく感じたものです。

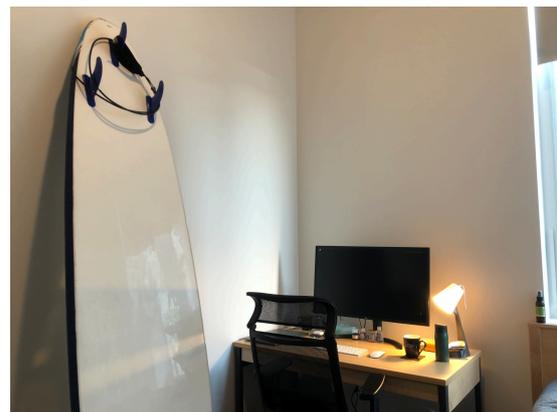


図 1: 作業机-ボードを添えて

隔離後は大学のアパートメント（隔離されていた場所とは違う建物）に引っ越しました。私の部屋は 4 人部屋ですが、寝室は扉で区切られているため、個人の空間は確保できています。3 人のルームメイトはチャイニーズアメリカン 1 人と中国人 2 人という

構成です。3人は遅くとも学部からアメリカにいるため、英語も流暢でこちらの生活にも慣れているため、非常に頼り甲斐があります。あまり外に出られない分、部屋の中で会話ができる環境なのは非常にありがたいです。キッチンに中華系スパイスの香りがずっと漂っていて、コーヒーを淹れても香りがかき消されてしまうことだけが難点です。

学期が始まるまでに2週間ほど時間があつたので、WFH環境を整えたり、銀行口座を開設したり、サンディエゴでは必須の車とサーフボードを調達したりしました。ちょうど私が渡米したタイミングでサンディエゴを離れる日本人の方から車を格安で譲ってもらえたのはラッキーでした。夢のマイカーです。車の免許もスムーズに取得でき、早々にパスポートを持ち運ぶ必要もなくなりました。サンディエゴは高速道路がよく整備されているので、車と免許さえあれば大抵の場所に15分くらいで行くことができ、不自由ない生活を送ることができています。

2 秋学期

今学期は研究が完全オンラインで思うように進まないことを想定して、講義を二つ取ることにしました。結果的には研究が思っていたよりスムーズに進み、講義の課題に時間を取られるのにもどかしさを感じる日々を送ることになってしまいました。来学期以降はより良いバランスを取りながら研究に邁進していきたいです。

2.1 研究

私は大学院合格時点で指導教員が決定されており、入学と同時に研究室に配属され研究を開始しました。研究室には学生が10人ほどおり、同期は3人です。週に一度のReading Groupくらいでしか全員が集まることなく、まだ全員としっかりと話ができているのは少し残念です。一方、同期とは頻りにチャットやZoom経由でコミュニケーションをとっています。3人とも少しずつ研究興味が異なるので、それぞれの興味について紹介しあったりして

います。それ以外にも単なる雑談をできる仲間もあり、このような状況下で同期の存在は少なからず助けになっています。

現在は一つの研究プロジェクトに先輩とペアになって取り組んでいます。というのも新入生にとって完全リモートで研究のアイデア出しから始めるのはかなり困難であろう、ということで指導教員が興味に応じて新入生と先輩をマッチングしてくださいました。テーマは時空間データを用いる機械学習におけるプライバシーで、そもそもプライバシーをどう定義するか、といった問題から考える必要があります。なかなかタフですが楽しく進めることができています。週に先輩と雑談ベースで1回、指導教員も交えて1回ずつミーティングがあります。少し面白いなと思ったこととして、指導教員とのミーティングでは毎回overleafドキュメントを使って進捗を報告するという点が挙げられます。文章に書き起こすことで思考が整理され、論文執筆のフェーズでも役に立つ（と思われる）ので、準備に時間は取られますが良いアイデアだなと思っています。

秋学期の研究を通して、自分の興味がある分野について頻りにディスカッションできる環境を選んで、改めて良かったなと感じています。同時にまだまだ未熟であることを痛感する毎日なので、このプロジェクトを通して知見や考え方を吸収できるだけ吸収してやろうという意気込みです。

2.2 講義

今学期は以下の二つの講義を受講しました。私は交換留学などの経験もないため、英語での講義に慣れる意味でも前提知識が十分にある機械学習の講義と指導教員にすすめられた情報理論の講義を取りました。

2.2.1 CSE250A (Principles of Artificial Intelligence: Probabilistic Reasoning and Decision-Making)

機械学習の基礎的な立ち位置の講義です。非常に人気のある講義で先輩方もこぞっておすすめています。

ました。内容は発展的ではありませんが、課題も含めて非常によく練られた講義で、基礎事項の整理が改めてできている感覚があります。

2.2.2 ECE255A (Information Theory)

私の所属する学部とは異なる Electrical and Computer Engineering の学部の情報理論の講義です。"Elements of Information Theory" という教科書に沿って講義が進められました。学部で受けた情報理論の講義よりは発展的でしたが、基本的には教科書の範疇を超えることのない内容です。比較的受講者が少ないこともあり、Zoom 上ですが頻繁に対話を伴う講義でした。日本にはあまりないスタイルの講義ですが、回数を重ねるうちに少しずつ慣れていきました。

2.2.3 生活

せっかく渡米して、サンディエゴという素晴らしい地に足を踏み入れたので、週末にはアウトドアのアクティビティを楽しんでいます。青空の下、サーフィン、ゴルフ、ハイキングなどをする経験は何物にも代えがたいものなのかなと思います。



図 2: キャンプでシチューを食べている様子

こういった状況で、新たな交友関係を築くのは非常に難しく、ルームメイトや生活のセットアップなどを手伝っていただいた日本人の先輩方と時間を過ごすことが多いです。できることは限られていますが、サンディエゴの地ビールを片手に、真面目に時に不真面目に議論を交わす時間もまたとても重要な

時間です。

また私にとっては家事全般を全て自分で行うのも初めての経験でした。意外にも適応できているという感覚があり、今のところはそういったことも楽しみながら生活できています。特に健康のためにも食事には気をつけていて、例えばサラダを毎食食べるようにしています。料理自体はそもそも嫌いではなかったのですが、食事は調理を含めて良いリフレッシュになっています。日本食スーパーも近くにあるため、日本食を作ることも難しくありません。また家事だけでなく散髪も自分でするようになりました。一人で生きていく術がだいぶ身に付いてきています。

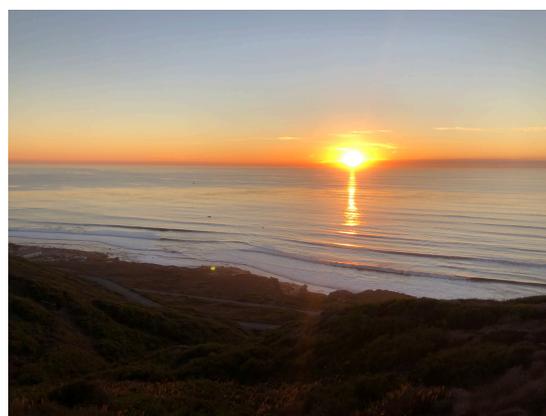


図 3: Cabrillo National Monument から撮影したサンセット

3 今後に向けて

入学前に思い描いていた大学院生活とは異なる学期を過ごしました。稀にキャンパスに入る用事がある度に、この広いキャンパスに通って、昼間は同僚と顔を合わせて議論を交わしながら研究に没頭して、帰り際にジムで運動したりビールを飲みに行ったり、といった生活への憧れを強くしています。それでも今のスタンダードに合った生活をするほかありません。そしてこの状況には思いの外うまく適応し楽しく過ごせているとも思っています。さらに色々な話を聞くうちに、自分がこれからの Ph.D. 生活をどのように過ごしていくのが理想なのかについても少しずつ具体的なイメージが掴めるようになってきまし

た。しばらくはこの状況が続くと思いますが、この調子で楽しみながら、本業である研究に真摯に取り組む、1年目の間に成果が出し始められればと思っています。

4 最後に

先行きが不透明な状況の中で、船井情報科学振興財団様のご支援を受けることができていることの有難さを実感しております。金銭面でのサポートはもちろんのこと、渡米に際しても学生の渡米の意思を

尊重してくださったこともあり、無事サンディエゴでの生活を始めることができています。また長くに渡って築き上げてくださった財団生同士の繋がりも今の自分の助けになっています。似た志を持つ同期、頼り甲斐のある先輩方の存在のおかげで、このような状況でも思い切ってチャレンジをする勇気が湧いてきます。感謝の気持ちを忘れずに、これからも精進します。

最後になりますが、改めて多大なるサポートをしてくださっている財団の皆様にご心よりお礼を申し上げます。